

# 対話集会 世界の中の日本の「中東・イスラーム」報道 【これまで】と【これから】

信州イスラーム世界勉強会 9月定例会



## 第一線で活躍する国際報道の俊英が、信州に集結！

オイルショックで終わる日本経済の高度成長／湾岸戦争の戦費5分の1負担と自衛隊初の海外派遣／対テロ戦争協力／これら日本の曲がり角の動機は、いつも中東の戦争でした。泥沼のウクライナ戦争下で、サウジとイランの和解といった新局面を産み出すのが、人類の抱える問題群を背負い込まされた中東・イスラーム圏です。それを見つめるのは世界を見渡すこと。世界の激動と分断は、これまで欧米中心の世界の報道システムに変身を迫っています。何が本当か分からなくさせる「ポスト真実」時代、フリーの報道者の活躍、情報の送り手・受け手の区別なくSNS、通信技術の進化とデータの多面体化に加え、軽視・看過されてきた地域の隅々が、うごめきだしたからです。中東・イスラーム圏を覗き窓にして、報道界のヴェテランの方々とともに、世界の新しい情報循環の〈これから〉のあり方を提言する、受身一方でない、市民対話を試みましょう。

信州イスラーム世界勉強会 代表 板垣 雄三

と き：2023年9月9日（土）13：30～17:00

進行: (i) 〈これまで〉パネル対話+提言A、(ii) 〈これから〉提言B+パネル対話、  
(iii)会場の全体対話、(iv)しめくり [途中、休憩あり]

ところ：信毎メディアガーデン 3階スタジオ

参加費：一般 500円 信州イスラーム世界勉強会会員・学生 無料

主 催：信州イスラーム世界勉強会 後援：信濃毎日新聞社

### パネリスト

時事通信社解説委員 杉山 文彦  
朝日新聞社編集委員 石合 力  
テレビ朝日報道局長 内藤 正彦  
信濃毎日新聞社論説委員 工藤 信一

### コーディネーター

早稲田大学社会科学総合学院  
亜細亜大学都市創造学部 非常勤講師 若林 啓史

### 自由討議に参加していただく予定の皆さん

#### (i) これまで (提言A)

出川展恒 (NHK 解説主幹)  
デコード豊崎アリサ (ジャーナリスト・映画監督)

#### (ii) これから (提言B)

鶴飼哲 (一橋大学名誉教授、現代思想)  
小川幸司 (伊那弥生が丘高校教員、世界史教育)  
金城美幸 (立命館大学生存学研究所研究員、パレスチナ問題)  
森井雅子 (八ヶ岳板垣塾主宰)  
美甘信吾 (信州大学経法学部教授 国際政治)

### 提言メッセージをお寄せいただく予定のみなさん

「若者」の立場から 信州大学経法学部美甘ゼミ有志の皆さん

坂東真理子 (昭和女子大学総長、元埼玉県副知事、男女共同参画局長) 石渡博明 (国際視覚障害者援護協会理事長)

林佳世子 (東京外国語大学学長 TUFUS Media :中東アジア諸国の報道の和訳紹介) 石川文洋 (報道写真家)



杉山文彦 (すぎやま・ふみひこ) : 時事通信社解説委員

ニューデリー特派員、カイロ特派員として、アフガニスタン内戦や中東情勢など途上国の問題を幅広く取材。パリ支局長、外信部長、編集局総務を務めた。2016年から現職。  
 なお、社会活動としては、市民の間で信州イスラーム世界勉強会の設立を呼びかけ、2015年12月の発足に至った。編著に『世界テロリズム・マップ 憎しみの連鎖を断ち切るには』(平凡社新書)など。

石合 力 (いしあい・つとむ) : 朝日新聞編集委員

中東勤務は1998~2001年、11~13年の2度。パレスチナ紛争、アラブの春、シリア内戦などを現地取材。ワシントン特派員、国際報道部長、ヨーロッパ総局長などを経て2022年から現職。板垣先生が主導した外務省「イスラーム世界との文明間対話セミナー」メンバー。クラシック音楽関係の取材、評論活動も。著書に「戦場記者」(朝日新書)、「響きをみがく 音響設計家豊田泰久の仕事」(朝日新聞出版)。父は長野県長和町出身、同志社大学客員教授。

内藤正彦 (ないとう・まさひこ) : テレビ朝日取締役報道部長

トルコ史を専攻していた大学時代から中東地域に頻りに渡航。「雨を待つより雨の降る場所へ行け(遊牧民の諺らしい…)」が座右の銘。1996年カイロ特派員に着任以降、パレスチナ紛争、コンボ戦争、アフガン戦争、イラク戦争、リビア戦争、シリア内戦等、中東中心に戦地・紛争地を15年以上にわたり取材。帰国後は報道ステーション、サタデーステーション等のコメンテーターを担当。ロンドン支局長、外報部長、編集長を経て2021年から現職。共著に『ジャーナリストはなぜ「戦場」へ行くのか』(集英社新書)。

工藤信一 (くどう・しんいち) : 信濃毎日新聞 論説委員

出版社に6年間勤務した後、1991年に信濃毎日新聞社に入社。諏訪支社、本社報道部、軽井沢支局、東京支社、文化部を経て、2014年から論説委員。主に憲法や人権をめぐる問題を担当。最近の入管の問題に力を入れてきた。国際分野の社説も時々書く。文化部デスク時代に長期連載したフォトジャーナリストによるパレスチナ、チェチェンなどの報告が『フォトジャーナリスト13人の眼』『「戦地」に生きる人々』のタイトルで出版されている(ともに集英社新書)。趣味は映画とラグビー観戦。好きな映画監督はケン・ローチ、アキ・カウリスマキ。俳優ならサンドラ・フラウ。今年見た映画で印象に残ったのは「パリタクシー」「コンパートメントNo.6」。還暦を迎え、目下最大の望みはスペイン語を習得してキューバを再訪すること。佐久市出身。野沢北高校卒。

若林啓史 (わかばやし・ひろふみ) : 早稲田大学非常勤講師 / 亜細亜大学非常勤講師

1986年東京大学法学部卒業・外務省入省。アラビア語を研修、イラク、ヨルダン、イラン、シリア、オマーンなどで勤務。2016-2021年東北大学教授・同客員教授。2020年、京都大学より博士号授与。著書:『中東近現代史』、『シリアの悲嘆:キリスト教徒虐殺事件・一八六〇年』、『聖像画論争とイスラーム』

